
性同一性障害とは

まあちす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

性同一性障害とは

【Zマーク】

Z6978C

【作者名】

まあちす

【あらすじ】

思つたことを綴つただけ。今までの経験を簡単にまとめてます。つづきます

始まり（前書き）

同性愛が理解出来ない人はご遠慮下さい。

始まり

12月19日。

女として生まれた。

幼稚園

幼稚園のとき、『君が好き』などと言っていた覚えがある。

でもそれは本当に小さい頃。
好きと言つのは友達として。
自分が女だということ、スカートを履くこと、全て違和感がなかつた。

小学校

私が
「レズ」

「性同一性障害」と気付き始めたのは、小学校4年生の頃。
好きになつた相手が、同性の女の子だった。

当時は軽い気持ちで『好き』と、学校の友達や本人にカミングアウトをしていた。

遊び方も男の子と男の子の遊び。
格好も男の子。

男になりたかった。

スカートが嫌になった。

そのときは、周りからの視線など気になるどころか、そんな考えすらなかつた。しかし親への罪悪感だけはあつたから隠していた。変な子供だと思われない為に。

中学校

中学生になつたら同性愛だと言つてしまは、一番仲いい親友とよべる1人の子以外に、全て隠した。

自分で同性愛は変だと思つたからである。

みんなは異性に興味を持ち、異性を好きになる。それが当たり前。

でもやつぱり女の子を好きになる。

女が好きだと呟つこと隠してたけど
髪型、仕草、言動は男を意識して振る舞つた。

ある日、好きになつた子に何氣無く言われた。

「男が好きと？女が好きと？」

本当の事を話し、その子に

「好き」と告白をした。

鼓動が早くなる。

手は汗で湿り、顔が熱い。

初めての真剣な告白。

でも強がつてしまつ。

「返事はいらん。ただ伝えたかつただけ」

返事なんか怖くて聞けなかつた。

恋は多分片想いで終わつた。

中学校ではスカートが苦痛だつた（笑）

高校

私服で通える学校を選んだ。

学科の内容など気にもしなかつた。

色々な人と出会う。

自分と同じような

「仲間」と知り合う。

嬉しかつた。

1人じゃない。

同じ年階格好も似てる。

でも違うのは交際経験、性経験があつた。

性経験は中学の時に少し有つたが、無いのに等しい。

同性と付き合つことが物凄く羨ましかつた。

仲間が出来た事で自信が付き、友達にカミングアウトできるようになつた。

でも恋は失敗ばかりだつた。

17才になると

「彼女」という存在の人ができる。喧嘩して距離を置いていた期間もあつたが3年付き合つた。

なんとなく出会い

なんとなく付き合つて

なんとなく3年一緒にだった
付き合い方もわからず。

初めての彼女。

別れの時は辛かった。

この人と居たときの自分は本当の自分じゃなかつた。

素でいたつもりが、
素をだしてなかつた。

3年間ずっと。

それからも出会いはあつたが続かず。

女の子は俺に対して言つ。

「ウチはどがんも思わんよ！別にあつていいー男とか女とか関係ないやん！」

そういうてくれる子達は沢山いた。

でも俺と付き合つてることは皆に内緒。

知つてるのは周りの一部の人間。

みんなは大丈夫というが、少しは抵抗があるんだろう。

「男だつたらなー」

軽く女に言われたことがある。

男だつたら。

何回自分の性別を恨んだらう。

いつそのこと生まれ変わりたいと思つただらう。

性同一性障害には、ある壁がある。

結婚、子供。

好きな人と自分の子供が欲しい。

「よかよね～。お前は妊娠させる心配ないけん」

と、男友達によく言っていた。

性同一性障害でも普通の家庭に憧れる。

1人の人間として。

男として。

結婚は海外では認められている場合もあるが
子供は不可能だ。

体外受精。

精子提供。

血が繋がることはない。

親父が女。

子供は理解に苦しむはずだ。

イジメの対象にもなるだろう。

子孫を残すことのない人間。

俺は何の為に生まれたのか。

生まれてはいけなかつたのか。

警察の1人に優しい人がいた。

「若いちは子供に憧れる。年取れば2人が一緒にいると思つひとが現れる。」

真剣に話してくれた。

でも強がつた。

「自分も若いけん、気が変わつて男に走るかもしれんしね～。」

すると警察の人はこう言つた。

「それはないと思う。お前は自分のことを男だと思つて男友達と遊んでるんだろうけど、体は女ぞ。お前の体は利用されたとき、立ち直りきらんぞ。

男友達も、その辺はよく注意しつけよ

聞いた話しあい話しどう無かったが、嬉しかった。

赤の他人なのに真剣に話してくれた。

「俺は男に興味ない。男に興味持てつて言われても無理。お前もうやうやう？無理矢理変えても変わらんし、変える必要もなかたい。お前はおまえぞ。」

でもやつぱり問題は子供…。

考えると死にたくなる。

生まれ変われば…。

でも自殺は嫌だ。

偶然にも事故に合づか、病気になってしまいたい。

今、目の前の小さな幸せが終わる寸とするたびに想つ。

何事もなかつたように死ねたら。

好きになる人は子供好き。

子供を欲しがる。

これから先もその問題がついてくる。

早くこの苦しみに慣れたい。

普通の家庭を持つてみたい。

でも好きな人に好きって気持ちを隠しきれない。

相手が子供好きであつても。

好きになるのには理由はない。

でも絶対に気持ちが重いはず。

俺が好きになつた人は不幸になつてしまつ。

なんも良いことがない。

そつ思えてきた。

嫉妬

ただ女が好きになるわけではない。

極端に男が嫌いだ。

友達とかは平気だけど、男は嫌いだ。

好きな人を取られる不安。

本物の男に負けたくないが、子供を作り、
結婚できるのは男。

見るだけでムカムカしてくる。

なんで男の体で生まれて来なかつたんだろう。

体の一部、腕、足、目。無くなつても構わない。

好きな人の子供を作れる男になりたい。

どんなに遊び人でも犯罪者でも、結婚ができる。
健全な体なら子供が作れる。

健康でも善人でもお金がいくらあつたしても、
自分の子供だけは作ることはできない。

これは変えられない事実だから。

悔しい。

誰も恨むことも出来ない。

この、女の体のままで何ができるのか。

色んな意味で男に嫉妬をしてしまう。

俺の人生は、ただの無い物ねだりかもしない。

子供

男じゃないから自分の子孫を残すことはないだろつ。

でも好きな人が腹を痛めて生んだ子なら絶対に家族として育てるこ
とができる。

父親が誰であつても。

血の繋がりの絆の強さを超える。

簡単なことではない。

もしそういう家族と呼べる人達が現れたら、もしくは受け入れても

らえるのなら、

命を掛けたい。幸せにするために。

好きな人の大切な子供だからこそ、自分にとつても大切な存在。

好きな人と一緒にいたい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6978c/>

性同一性障害とは

2010年10月28日03時49分発行